

実施概要

昨年度より策定を進めている「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」の「ビジョン編」の素案を市民と共有し、まちづくりへの関心を喚起するとともに、「戦略編」の策定に関する市民意見を把握することを目的に、市民を対象としたワークショップを実施しました。参加者募集にあたっては、無作為に抽出した札幌市民4,000名に案内を送付した他、札幌市ホームページや広報誌への掲出等を行いました。
ワークショップは1回完結の内容で、実会場2回とオンライン2回の計4回実施し、計129名が参加しました。

【ワークショップの流れ】

当日は、参加者を6～7名ずつのグループに分け、まちづくりの8分野（子ども・若者、生活・暮らし、地域、安全・安心、経済、スポーツ・文化、環境、都市空間）について、まち戦ビジョンで掲げる3つの重要概念（ユニバーサル、ウェルネス、スマート）を踏まえた上で、10年後の目指す未来の姿を考え、その後、それを実現するために「市民・企業ができること」「行政ができること」について意見交換を行いました。

日時・参加者

【実会場開催】

開催日時：令和4年6月25日（土）13:30～16:00
開催場所：TKP札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム7A・7E
（札幌市中央区北3条西3丁目1-6 札幌小暮ビル7階）
参加者数：46名

【オンライン開催】

開催日時：令和4年6月25日（土）18:00～20:30
開催方法：オンライン（Zoom）
参加者数：22名

【オンライン開催】

開催日時：令和4年6月28日（火）18:00～20:30
開催方法：オンライン（Zoom）
参加者数：13名

【実会場開催】

開催日時：令和4年6月29日（水）18:00～20:30
開催場所：TKP札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム6A
（札幌市中央区北3条西3丁目1-6 札幌小暮ビル6階）
参加者数：48名

①子ども・若者分野に関する主な意見

目指す未来	○・育児や医療、教育にかかる費用などを無償化、あるいは補助がある。
行政ができること	・育児や医療、教育などへの支援、補助を充実させる。
目指す未来	○・仕事と子育てを両立しやすいシステム（育休取得が楽になるなど）が整っている。
市民・企業ができること	・企業で子どもの面倒を見るチームを結成したり、託児所や子育て中の社員をフォローしやすい環境をつくる。
目指す未来	○・子どもの体調が悪い時や保護者が忙しい時に預けられる施設がある。
市民・企業ができること	・地域が管理する学童保育の施設を作り、高齢者が子育てに活躍する。
目指す未来	○・いじめ問題撲滅に力を入れ、大人が子どもをいじめから守ってあげられる。
行政ができること	・学校と家庭をつなぐサポートがある。
目指す未来	○・国際交流に力を入れることで、若者が様々なチャンスをつかめる。
行政ができること	・国際交流が手軽にできるオンラインシステムなどを開発する。
目指す未来	♡・子どもたちにスポーツや文化が浸透している。
市民・企業ができること	・体力に自信がない人でも気軽に参加できるスポーツクラブを作る。
行政ができること	・スポーツ選手などプロフェッショナルな方を学校に派遣する。
目指す未来	♡・子どもが屋内だけでなく屋外でも遊びたくなるような施設、場所がある。
行政ができること	・スケボーや自転車で遊ぶことができるエリアを作る。
目指す未来	▷・教育について、特有の分野のスペシャリストから学べる場がある。
市民・企業ができること	・子どもや若者が学びたい分野の先生を派遣できるシステムづくり。
目指す未来	▷・Zoomなどオンライン・デジタル技術を活用した様々な分野の勉強に参加できる仕組みがある。
市民・企業ができること	・教育教材を小・中・高においてタブレットで一本化する。
行政ができること	・国際交流やデジタル技術を活用し多様な人が関心のある分野を学べる仕組みをつくる。

※「目指す未来」の文頭のマークは、どの概念と繋がりがああるかを表しています。



ユニバーサル
（共生）

誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会



ウェルネス
（健康）

誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会



スマート
（快適・先端）

誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会

②生活・暮らし分野に関する主な意見

目指す未来	○・医療・子育てなどを24時間相談できる仕組みがある。
行政ができること	・オンラインで診療できる仕組みを整える。
目指す未来	○・高齢者や障がい者など、誰にとっても安心安全なサポートがある。
市民・企業ができること	・高齢者向け施設でのケアの見直しなど、その人に合ったものや、その人のできることを生かす。
行政ができること	・ハンディキャップがある方へのサポートにテクノロジーを活用する。
目指す未来	○・NoMapsや札幌国際芸術祭などのイベントを、札幌市民誰もが知っているまち。
行政ができること	・SNSなど市民の目に入りやすい広告を出す。
目指す未来	♡・大人（高齢者まで）も学びなおせたり、講師となって教える活躍の場がある。
市民・企業ができること	・夜間でも大人や若者が学べる場をつくる。
行政ができること	・ボランティアやリタイアした方が活躍できる場を提供する。
目指す未来	♡・冬でも外出の機会がたくさんあり、健康や体力アップができていくまち。
市民・企業ができること	・冬にも体を動かす楽しい運動のイベントを増やす。
目指す未来	♡・自分の症状に合った医療が受けられる病院が一目でわかる総合サイトがある。
市民・企業ができること	・症状で検索や病院の口コミなどを見ることができ病院検索サイトを作成する。
目指す未来	▷・雪国らしさを生かしている。
市民・企業ができること	・雪かきでの体力づくりや雪の魅力を知る。
行政ができること	・雪をエネルギーとして利用する。
目指す未来	▷・自動車や公共交通機関の自動運転化が進んでいる。
市民・企業ができること	・AIなどの先進テクノロジーを積極的に活用する。
行政ができること	・運用するノウハウの提供する。
目指す未来	▷・高齢者を対象としたスマートフォンなどのデジタルデバイスの講習会が身近にある。
市民・企業ができること	・大学生や高校生が高齢者にスマートフォンの指導を行う。
目指す未来	▷・高齢者でも行きたい場所へすぐ移動できる仕組みがあるまち。
行政ができること	・地下鉄やJR路線などの公共交通を充実させる。

③地域分野に関する主な意見

目指す未来	○・地域全体のほか、外国人とも支え合い、気軽に交流できるような環境（場所、制度など）がある。
市民・企業ができること	・英語表記の案内板などを使いながら、観光客の案内を市民が行う。
目指す未来	○・子どもも大人も交流でき、運動を楽しめる公園などがある。
市民・企業ができること	・子どもと大人が地域内で気軽に参加できるイベントを活性化させる。
目指す未来	○・高齢者と若い世代が会うきっかけとなる多世代が交流できる場がある。
市民・企業ができること	・多世代が参加できて交流のきっかけとなるラジオ体操などを開催する。
行政ができること	・若者が高齢者にSNSなどを教えるような機会を作る。
目指す未来	♡・ヨガやストレッチ、キツネダンスなど、参加して楽しい行事があり、若い世代でも町内会活動に参加しやすい。
市民・企業ができること	・一人暮らしや若者にも町内会に参加するきっかけをつくる。
行政ができること	・若者が行きたくなるイベントを実施する。
目指す未来	♡・筋トレコミュニティのような趣味でつながるコミュニティもあるので、公共施設がコミュニティの拠点となっている。
行政ができること	・町内会館などもスマホで予約して気軽に使えるようにする。
目指す未来	♡・地域で自分らしく活躍できる。
市民・企業ができること	・ストリートピアノの開催など、気軽に自分の得意なことを発表する。
行政ができること	・得意なことを発表し、それについてのセミナーを開いて話してもらおう場をつくる。
目指す未来	▷・多様な人が参加しやすい新しい運営の形として仮想空間の町内会がある。
行政ができること	・高齢者にも分かりやすいように、ボタン一つで町内会の会議などにオンライン参加ができるアプリを作る。
目指す未来	▷・札幌も近年は夏が暑いので学校や公共施設にクーラーがついている。
市民・企業ができること	・電力をあまり使わないエアコンを開発する。
目指す未来	▷・足が悪いなどの事情で家からあまり出られない方でも、デジタルデバイスでメタバースにアクセスし、行政手続きなどができる。
行政ができること	・選挙の投票などもネットでできるようにする。
目指す未来	▷・遠隔でも繋がれる技術があり、離れて暮らす家族の見守りができる。
市民・企業ができること	・オンラインで交流できるようにする。

④安心・安全分野に関する主な意見

目指す未来	○・災害への備えがあり、災害に強い。
市民・企業ができること	・EV車への転換をすすめ、災害時には電力として活用する。
行政ができること	・安全な避難ルートの確立や、復旧のイメージをあらかじめ市民と共有する。
目指す未来	○・避難所においても精神障がい者の方へのケア、見守りがある。
市民・企業ができること	・障がい者の方、外国人の方も分かりやすい優しい言葉で書かれたガイドラインをつくる。(SNSや紙で配布)
目指す未来	○・朝・昼・夜関係なく誰でも安心して外を出歩けるような防犯がしっかりしている。
行政ができること	・景観がよくなり安全にもつながるようなおしゃれな街灯を設置する。
目指す未来	○・災害時に助け合える関係性ができている。
市民・企業ができること	・困っている方がいれば、積極的に声を掛けるような意識づけがある。
目指す未来	♡・自転車等の逆走がなく交通マナーが守られている。
市民・企業ができること	・自転車の交通マナーを周知する。
行政ができること	・自転車の講習をより強化し、子どもときからルールや罰則の理解を深める。
目指す未来	♡・行政が身近な存在になって、助けを求めやすい存在になる。
行政ができること	・行政・住民・自衛隊等機関などが連携した防災訓練を実施する。
目指す未来	▷・デジタル格差がなく、誰もが先端技術を使っている。
行政ができること	・一家に一台防災アプリの入ったタブレットを配布する。
目指す未来	▷・避難場所などをしっかり把握している人が少ないので、SNSなどを活用した災害時のプロモーション動画などがあると良い。
市民・企業ができること	・SNSなど多様な媒体で災害についての情報発信をするようにする。
目指す未来	▷・地域住民のローカルな情報共有サービス(SNSのようなもの)があり、災害時に情報共有できる。
市民・企業ができること	・危険な事などを、ハッシュタグなどを使ってリアルタイムで共有する。
目指す未来	▷・水道管の凍結や除雪など冬場の防災がしっかりされている。
行政ができること	・ITで移動困難者の自宅の周りを除雪できるとよい。
目指す未来	▷・子どもが一人で歩いても安全である。
行政ができること	・AIを活用した防犯カメラなどを用いて見守りの強化を行う。

⑤経済分野に関する主な意見

目指す未来	○・一次産業の担い手が増えている。
市民・企業ができること	・自分の食べるものに興味を持ち、どこの生産品なのかということを教育で伝える。
行政ができること	・農業の人手不足情報をまとめて紹介をする。
目指す未来	○・障がい者の特性を生かした働き方が考えられている。
市民・企業ができること	・職場への通勤が難しい方でもテレワークで働けるようにする等、労働環境を整備する。
行政ができること	・障がい者の積極的な雇用に補助を行う。
目指す未来	○・空き家を再利用し、お店や子どもたちの支援に使えるようになっている。
行政ができること	・空いている土地の積極的活用を広報する。
目指す未来	○・新しい遊ぶ場所・働き場所がある。
行政ができること	・昔からの建物も利用しつつ、新しい活躍の場を増やす。
目指す未来	○・インバウンド(観光)需要のための多言語対応がされている。
市民・企業ができること	・自動翻訳機を開発する。
行政ができること	・外国語教育を充実させる。
目指す未来	♡・ワークライフバランスがとれており、100歳に向けての計画的な生活ができるようになっている。
市民・企業ができること	・自分の都合に合わせた働き方ができるようにする。
行政ができること	・リモートワークを取り入れた企業への補助金を出す。
目指す未来	♡・体と心が両方健康で働くことができる。
市民・企業ができること	・社員などへメンタルケアを実施をする。
行政ができること	・職場の環境改革を行った企業への優遇、減税をする。
目指す未来	▷・札幌の雪がブランド化しており、夏でも冬でも雪を生かしたまちづくりができていく。
市民・企業ができること	・SNS等で雪の広報を行う。
行政ができること	・雪の貯蔵をする。
目指す未来	▷・広報等で小さな商店やカフェも有名となり、魅力的な街になっている。
市民・企業ができること	・小さな店をコミュニティ化する。
行政ができること	・SNSを利用した宣伝を行う。

⑥スポーツ・文化分野に関する主な意見

目指す未来	○・部活動や授業でウィンタースポーツに触れる機会が増えている。
市民・企業ができること	・市民が気軽に使えるスケートリンクを作る。
行政ができること	・学校教育でウィンタースポーツの時間を増やす。
目指す未来	○・スポーツが苦手な人や高齢者でも、気軽にスポーツが体験できる。
市民・企業ができること	・スキー、スノーボード、スケートに触れるためのイベントを行う。
目指す未来	○・マイナースポーツの普及（あまり体を動かさないのも含む）が進んでいて、誰でもスポーツを楽しむことができる。
市民・企業ができること	・マイナースポーツへのボランティアの積極的参加をする。
行政ができること	・マイナースポーツを体験できる施設を期間限定で作り、いろんな人に気軽に知ってもらう。
目指す未来	○・明治の開拓期とアイヌ文化への理解を深める機会がある。
市民・企業ができること	・札幌やその他地域の歴史に関心を持ち、学習をする。
行政ができること	・札幌市がアイヌ文化の発信地となるためのプロモーションをする。
目指す未来	♡・運動が推奨されている。
市民・企業ができること	・体育館など運動ができる施設の無料開放などを積極的に利用する。
行政ができること	・運動量の目安などプロモーションを行う。
目指す未来	♡・オフィスワーカーが行きやすいよう、時間帯が配慮されたジムができています。
市民・企業ができること	・スポーツジムで、オフィスワーカーやテレワーカー限定の割引を作る。
行政ができること	・体育館に自動接客システムがあり、いつでも利用できるようにする。
目指す未来	♡・音楽活動が大切にされていて、札幌市内において様々なジャンルの音楽団体が活躍している。
市民・企業ができること	・クラシック以外のジャンルの音楽の団体（札幌のようなもの）を作る。
目指す未来	▷・札幌といえばe-sportsという機運を醸成する。
市民・企業ができること	・e-sportsを勉強する機会を作る。
行政ができること	・市主催でe-sportsの大会を開催する。
目指す未来	▷・資料館の資料などのオンライン化が進んでいる。
市民・企業ができること	・メタバース（仮想空間）で文化を体験できるようにする。
行政ができること	・ネットライブラリーを充実させる。

⑦環境分野に関する主な意見

目指す未来	○・企業だけでなく小学校などでも、SDGsなどの環境に対する理解が進んでいる。
行政ができること	・義務教育での環境教育を進める。
目指す未来	○・コンパクトなサファリパークがまちなかにあるなど、動物を知る環境が増えている。
市民・企業ができること	・札幌に生息する動物についてもっと深く理解したり研究したりする。
目指す未来	○・多様な動植物と共存している。
行政ができること	・動物の生息に合わせた注意喚起や情報発信をすすめる。
目指す未来	♡・市街地にも農園がたくさんある。
市民・企業ができること	・市街地農園用に農薬が要らない野菜を作る。
行政ができること	・市街地農園で活動する場合に税金を安くする。
目指す未来	♡・ビルやマンションの壁、屋根等を活用した緑化ガーデニングが進んでおり、子どもの頃からみどりに触れ合っている。
市民・企業ができること	・緑地の維持管理を行う。
目指す未来	♡・自然環境の中でレジャー的な運動が促進されている。
市民・企業ができること	・イベントの開催による体力づくり。
目指す未来	▷・雪や寒さを資源として活用している。
市民・企業ができること	・雪冷熱など雪を利用する。
行政ができること	・雪冷熱を使ったビル開発を進めるための助成制度をつくる。
目指す未来	▷・太陽光や水素などを利用した再生可能エネルギーが使用されている。
市民・企業ができること	・企業によるソーラーパネルの普及。
行政ができること	・街中でも安全な水素エネルギーの活用を進める。
目指す未来	▷・ゴミ・廃棄物の再資源化・再利用によって新しい資源を産み出している。
市民・企業ができること	・企業による完全・安全なリサイクル技術の開発。
目指す未来	▷・ゴミがなく、いつもきれいなまちになっている。
市民・企業ができること	・耐火性があり防犯に強い24時間管理のゴミステーションを設置する。
行政ができること	・街中に安全で清潔なゴミ箱設置を進める。

⑧都市空間分野に関する主な意見

目指す未来	○・歩行者にも、運転する人にも安全で移動しやすいまちになっている。
行政ができること	・まちなかに動く歩道や、自転車専用レーンを設置する。
目指す未来	○・外国人や高齢者など様々な人が使いやすい地図案内がされるモニター（画像）が各所にある。
行政ができること	・多言語表示やARを用いた地図案内の開発を進める。
目指す未来	♡・歩行者天国があり、運動や交流が促進されている。
市民・企業ができること	・歩行者天国の実現に向けた署名活動。
行政ができること	・先進的な公共交通システムによって車両が入らない都心部の環境づくり。
目指す未来	♡・路肩を活用したマルシェなど賑わいを提供する都市空間がある。
市民・企業ができること	・多世代の方たちで交流ができる場を作る。
行政ができること	・場所の提供や情報発信を行う。
目指す未来	♡・徒歩圏内で生活が完結できる。
行政ができること	・都市空間の整備を進める。
目指す未来	♡・いつでも健康チェックできるような施設がある。
市民・企業ができること	・公共空間や施設に民間の医療サービスを入れる。
目指す未来	▷・無人店員のコンビニなど、AIを活かし人手不足に対応している。
市民・企業ができること	・AIなどを使用した完全自動化を進める。
目指す未来	▷・JRや地下鉄の活用など公共交通が充実している。
市民・企業ができること	・需要予測して効率的な運行ができる交通アプリの開発。
行政ができること	・公共交通機関の拡充を進める。
目指す未来	▷・都市にデジタル技術が増えている。
市民・企業ができること	・AI技術を使って建物の検査、修繕を進める。
目指す未来	▷・カーナビがなくても車内から道を見たら自動案内される。
市民・企業ができること	・基盤の目のような特徴を活かした自動運転特区の設置を進める。
行政ができること	・GPSなどのビッグデータを活用してルート最適化を図る。

当日の様子(実会場開催・オンライン開催)



オンライン開催ではブレイクアウトルーム（グループごとにZoom内で部屋を分けることができる機能）を使用し、各テーマごとにワークショップを行った。意見はリアルタイムでジャムボードを使用してまとめることで、話の流れを参加者が理解しやすいようにした。



第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン オープンハウス Let's THINK! SAPPORO これからの札幌をみんなで考えよう

実施報告

実施概要

実施した市民ワークショップの結果を広く市民に共有するとともに、さらに幅広い市民の意見を収集することを目的に、札幌駅前通地下歩行空間においてオープンハウスを開催しました。

オープンハウスのポイント

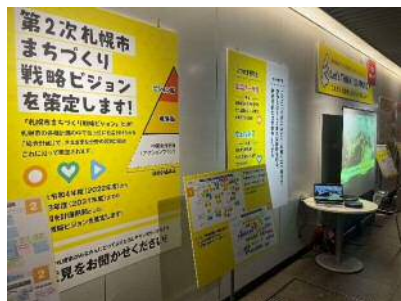
- 気づく
 - ・「何だか楽しそう!」「何をやっているのだろう?」と目に留まる会場づくり
- 知る
 - ・「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」について簡単に説明する掲示物で認知度の向上を図ります。
 - ・掲示する資料は、わかりやすい言葉に書き換え多くの世代が理解できるようにします。
- 発言する
 - ・実際のワークショップの様子やご意見および参考資料の動画・掲示物によって来場者の意見を引き出せるようにします。

上記のポイントをもとに、会場には、市民が「気づく」、「知る」ことを目的として、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンについての説明パネル（都市像や3つの重要概念、各分野の目指す姿等）や、ワークショップの画像や意見をまとめたパネル、会場に訪れた人が、まちづくりに関する意見を貼るパネルを展示しました。

当日は200名以上の方に来場いただき、10年後の札幌市についての意見が235件寄せられました。

日時・会場の様子

開催日時：令和4年7月2日（土）・3日（日）10:00～18:00
 開催場所：地下歩行空間 B 憩いの空間（札幌市中央区北3条西4丁目）
 意見投稿数：235件



地下歩行空間内の人の流れに対して沿うように、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンの説明パネル、ワークショップの様子や意見を載せたパネルなどを設置。来場者がスムーズに戦略ビジョンについて理解を深めたいうで意見を引き出せるようにした。

分野別 10年後の札幌市が目指す未来の姿に関する主な意見

子ども・若者	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを育てやすい環境（医療費や教育費の補助や無償化、子どもを預けやすい施設や外で遊べる場所、子育てに関する理由で休みが取りやすい職場環境など）が整っているまち。 ・色々な個性を持った子が学校などで無理に周囲に合わせることをしなくてもその子らしく生活できるような場がもっとあればいい。 ・教職員の負担が大きい。教員が長時間働かなくていいように、部活や子どものメンタルケアは専門の方を入れてほしい。
生活・暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・国籍、年齢、立場、職業、性的自認、家庭環境、経済状況などが様々な人々が、互いによく交流し、共存することを認めている社会になるとよい。 ・除雪に関する問題が解消され、冬も生活しやすいまちになってほしい。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人がいたら小さいことからお互いに声かけられるような関係性のあるまちになるとよい。 ・市政が市民に届きやすくなり、行政と市民が連携した情報や公共空間などのまちづくりが進んだり、若い世代が無理なく参加できる自治会の制度づくりが進んでいる。
安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンデータを活用した防災マップを作るなど、より効果的に備えられると良い。 ・大雪や川の氾濫による災害に備えた交通整備などの備えが必要。 ・人と車、自転車などの事故が起こらないよう、車の開発や歩道の整備などがされているまちになってほしい。
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロワイナリーや果樹園が広がる、“第6次産業都市”札幌になりますように。 ・経済格差をなくし、多種にわたる企業の雇用を増やして、若い人たちが働ける街にしてほしい。 ・子どもや高齢者だけでなく、働く世代も守られ安心して働けるまちであり、障がい者でも働けるよう職場環境（障がい者雇用している企業など）が整っているまち。 ・アニメ、特撮などのサブカル発信の街になるとよい。
スポーツ・文化	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックなどの国際大会は障がいを持つ方の希望にもなるので、実施してほしい。 ・オリンピックより福祉に予算を使ってほしい。 ・e-sportsに関する施設が増えてほしい。 ・もっと文化（音楽・美術・パレエなど）に親しみやすいまちになるとよい。音楽コンサートの開催を増やしたり、まんがミュージアムをつくるなど。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ0やCO2削減で、水がキレイな環境にやさしい都市になるとよい。 ・10年後も緑の木や花にあふれ、動植物が身近になっており、SDGsを意識したサステナブルな生活ができる街になってほしい。 ・北海道の顔となる、自然と共存した美しい街になっていると良い、夏は緑、冬は雪、四季を感じるきれいな街がよい。
都市空間	<ul style="list-style-type: none"> ・チカホの移動が大変なので、ゴーカートや移動する床などを整備してほしい。また、チカホの規模を市内全体に拡張することで、便利になるとよい。 ・空が広い札幌が好きなので、高いビルは増えてほしくない。景観を活かしたまちづくりになるとよい。 ・自転車専用レーンの整備や、冬でも快適な道の整備などをして、住み心地のよいまちになってほしい。 ・丘珠空港や新千歳空港までのアクセスがもっと便利になり、新幹線によって人との出会いがもっと増えているまちになってほしい。

市民ワークショップ以外の取組

小学生・高校生との意見交換	
学校名	大通高校（8/29、10/5）大谷地小学校（8/25、9/13、9/29）
内容	「総合的な学習の時間」における取組として、人口減少などの行政課題をテーマにアイデアを考えてもらい、児童・生徒がまちづくりに関する提案の発表を行った。 【児童・生徒の主な発表内容】 大通高校：「障がいがある方への差別問題解消に向け、正しい接し方等情報の周知、サポート環境の充実が必要」「多国籍、他年代の交流が盛んなまちの実現に向け、様々な人が交流できる文通企画があると良い」「札幌市の健康課題の解決に向けた、健康診断の義務化や病気等に関する知識の普及」「子どもたちが地域と関わる機会の創出に向けた活動」「教育における選択肢の多様化に向けフリースクールの無償化」等 大谷地小学校：「観光客に向けて札幌市の魅力をもっと発信するためにSNS等を活用する」「移住者向けに、札幌市の住みやすさをまとめたパンフレットなどを作成する」「札幌市が子育てしやすいまちということをアピールする」「もっと人々を楽しませるために、季節ごとにイベントを開催する」等
参加者	大通高校約300人（1年生）※発表者は6人 大谷地小学校約100人（6年生）

中学生・高校生への説明	
学校名	苫小牧市立明野中学校（7/20）大阪教育大学附属高等学校（8/30）幌延町立幌延中学校（9/7）、北海道教育大学附属札幌中学校（9/15）
内容	札幌市のまちづくりについて、まちづくり戦略ビジョンを基に説明。
参加者	苫小牧市立明野中学校4人、大阪教育大学附属高等学校5人、幌延町立幌延中学校4人、北海道教育大学附属札幌中学校2人

「ふるさと札幌」100年後も残したい私の好きな札幌	
実施期間	令和4年8月1日～9月30日
内容	市制100周年と札幌オリンピック開催50年の記念の年を迎えるにあたり、次の100年を創り上げる担い手として、札幌市内の小・中学校5年生～中学校3年生を対象に「100年後も残したい私の好きな札幌」の写真やイラストを募集した。都心の建物や豊かな自然、学校や公園等、様々な「100年後も残したい私の好きな札幌」が寄せられた。
参加者	527人

子ども議会	
実施日	令和4年10月29日～12月18日、市長報告会：令和5年1月11日
内容	札幌市内の子どもたちが「子ども議員」として、札幌市のまちづくりについて考え、話し合った内容を発表する取組を実施。
参加者	子ども議員21人（小学生・中学生）、サポーター9人（高校生・大学生）

北海道大学 新渡戸カレッジとの連携	
内容	北海道大学 新渡戸カレッジの特別講義の中で、札幌市の政策課題の一つである「人口減少対策」について学生がグループで検討、提案の発表を行った。北海道大学との包括連携協定の一環として実施。 【学生からの提案内容】 「幼稚園同士の連携や、ユニークな幼稚園（家事支援型、英才教育等）の設置による子育て環境の充実」「スタートアップ拠点の設置、オフィスの貸し出し等により、雇用面から人口減少を防ぐ」「子育てや冬季の生活、就職・転職等を支援することで、札幌を出た若者が帰ってきたくなるまちにする」「移住者増加に向けて、HPやSNSの拡充等、広報を改善し、情報発信を強化する」「大学と企業が連携した授業等を実施する」「再生可能エネルギー産業の振興や、空き地空き家を利用した都市農業を実施し、エネルギーの安定供給、若者の雇用先の確保、地産地消による都市の強靱化を図る」「姉妹都市を軸に海外企業の誘致や連携を進め、大学で学んだことを生かして働ける企業を増やす」等 【新渡戸カレッジについて】 新渡戸カレッジは、学部および大学院での教育と並行して実施される特別教育プログラムであり、グローバル社会で活躍するために必要なスキルとマインドを身につけるための教育カリキュラムを展開している。学部教育コースの基礎プログラム（学部1・2年生）には約250名が在籍。

市立高校生等を対象とした「まちづくりコンペティション」	
対象	市立の中等教育学校（後期課程）、高等学校及び特別支援学校（高等部）に通学する生徒
実施日	募集期間：令和4年11月1日～令和5年1月20日 発表会：令和5年3月19日
内容	市政に若者の意見を反映し、さらには、若者のまちづくりへの参画やまちへの愛着につなげるために、高校生等からまちづくりに関する提案を募集し、各応募者が集まった場で、その提案内容を発表してもらい、地域理解を促すイベントを開催。

U35-SAPPOROとの意見交換	
構成	35歳以下の自ら起業した企業経営者、デザイナーやライターなどのフリーランス、大学教員、会社員、公務員など
内容	京都市基本計画の若者への周知活動を契機として活動している京都市における取組（U35-KYOTO）を参考にし、若年層がよりまちづくりに関わるコミュニティの形成の取組を考えているU35-SAPPOROと継続的に意見交換を実施。5/16に実施したキックオフイベントにおいては、まちづくり戦略ビジョンの策定状況の情報提供を行った。
参加者	約50人 ※キックオフイベントの参加者数



※このほか、若手経営者や札幌商工会議所、北海道中小企業家同友会、金融機関などに向けて、計画案の内容について説明や意見交換を行いました。